



Access版DLLが提供する API一覧(早見表)

(株) ニューコム
2020年1月

タイトル	ページ
1. dbSheetClient サーバーと連携	2
2. データベース処理 (その①)	3
2. データベース処理 (その②)	4
2. データベース処理 (その③)	5
3. その他	6

1. dbSheetClientサーバーと連携

No.	API名称	機能説明
1 - 1	GetUserGroup	ログインユーザーが所属するグループ情報(複数あり)を取得する。
1 - 2	SetSvr_UserLog	Webサービスを利用して、DBSサーバーにユーザー操作ログを送る。
1 - 3	dbS_DownloadFile	サーバー上の指定ファイルをダウンロードする。
1 - 4	dbS_UploadFile	サーバーに指定ファイルをアップロードする。
1 - 5	StartSvrShell	サーバーにある実行プログラム(*.exeあるいは*.bat)を起動する。
1 - 6	SetProxy	クライアントPCのInternet Explorer (IE)のプロキシ設定を継承する。
1 - 7	GetSvrF_Info	サーバー上の指定ファイルの情報（ファイルサイズと更新日時）を取得する。
1 - 8	GetUserLevel	ログインユーザーの開発権限レベルと管理者権限レベルを取得する。
1 - 9	GetSvrDrive	サーバーが配置された物理ドライブ名を取得する。
1 - 10	SendSvrMail	サーバーからメールを送信する。

2. データベース処理(その①)

No.	API名称	機能説明
2-1	SetConnection	DLLにカレントプロジェクトコネクションオブジェクトを渡す。
2-2	CloseConnection	Access終了時にDLL内でオープンしているコネクションオブジェクトを閉じる。
2-3	GetAllTables	サーバーの指定DB上の全テーブル名を取得する。
2-4	GetAllViews	サーバーの指定DB上の全ビュー名を取得する。
2-5	ClearLocalData	ローカル指定テーブルのデータを全てクリアする。
2-6	CheckDataExists	Where条件データがサーバーDB指定テーブルに存在するかどうか確認する。
2-7	ExecQuerySvr	指定したサーバーDBでネイティブSQL(複数可)を実行する。トランザクションあり。
2-8	CopyLocal_fromSvr	サーバーDB指定単体テーブルのデータを(すでにある)ローカルテーブルにコピーする。
2-9	MultiCopy_fromSvr	サーバーDB指定複数テーブルのデータを(すでにある)ローカルテーブルにコピーする。
2-10	ImportLocal_fromSvr	サーバーDB指定テーブルと同定義のテーブルをローカルに自動作成(Create Table)しデータをコピーする。
2-11	ImportAll_fromSvr	サーバーDBの全テーブルと同定義のテーブルをローカルに自動作成(Create Table)し全データをコピーする。
2-12	LockSvrRecords	サーバーDB指定テーブルのWhere条件のレコードをロック/解除する。
2-13	GetCSV_fromSvr	サーバーDBにSQLで問い合わせ、結果をCSV形式(カンマ区切りの文字列)で返す。
2-14	CopySvr_fromLocal	ローカルテーブルのWhere条件データに合わせ、サーバーDB指定テーブル上の同一条件のデータを更新する。

2. データベース処理(その②)

No.	API名称	機能説明
2-15	ReplaceSvr_fromLocal	ローカルテーブルのWhere条件データに合わせ、サーバーDB指定テーブル上の同一条件のデータを差し替える。(トランザクションON)
2-16	ReplaceSvrNT_fromLocal	ローカルテーブルのWhere条件データに合わせ、サーバーDB指定テーブル上の同一条件のデータを差し替える。(トランザクションOFF)
2-17	ReplaceSvTbl_fromLocal	ローカルテーブルのWhere条件データに合わせ、サーバーDB指定テーブル上の同一条件のデータを差し替える。(1000レコード以上の更新向け)
2-18	InsertSvr_fromLocal	サーバーDB指定テーブルにローカルテーブルのデータを挿入する。
2-19	ResetAutoCols	ローカル指定テーブル(MDB側)のオートナンバー型フィールドをリセットする。
2-20	ChgDBconnect	dbSheetClientサーバーが接続するデータベースを切り替える。(引数は接続文字列)
2-21	ChgDB_Alias	dbSheetClientサーバーが接続するデータベースを切り替える。(引数はエイリアスNo.)
2-22	ImportSvrProcedure	サーバーDBに対して、ストアプロシージャやネイティブSQLを実行し、その結果をローカルの既存テーブルに書き込む。テーブルがない場合は自動生成する。
2-23	SaveXML_SvrQuery	サーバーDBに対して、ストアプロシージャやネイティブSQLを実行し、その結果をローカルにXMLファイルで保存する。
2-24	SetID_Manager	サーバーDBに各テーブルの主キー項目(整数型)の最大値を管理するテーブル("MaxValueManager")を作成し、そこに現在の最大値をセットする。
2-25	GetIncrementID	サーバーDBの主キー最大値管理テーブル("MaxValueManager")より、最大値+1の値を返すと同時に、その値を管理テーブルの対象テーブル名(項目名)のデータとしてセットする。
2-26	SetWebTimeout	API実行時のタイムアウト値を設定する。デフォルト値は100秒(100,000ミリ秒)である。

2. データベース処理(その③)

No.	API名称	機能説明
2-27	ChgConnectMode	サーバーDBへの接続を(dbSheetClientサーバーが提供する)Webサービス経由にするか、DBへの直接ローカル接続(LAN)にするかを設定する。
2-28	GetProjectUser	Webサービスを利用して、指定プロジェクトに参加しているユーザー情報を取得する。
2-29	DiffCopy_fromSvr	ローカルテーブルとサーバーテーブルのデータを比較し、差分レコードをローカルに取り込む。 "DBS_UPDATE_DATE"の値を比較し、異なるレコードのみ差し替える。
2-30	ImportSchema_fromSvr	サーバーDB指定テーブルと同定義のテーブルをローカルに自動作成(Create Table)する。データはコピーしない。
2-31	GetArray_fromSvr	サーバーDBに対するSQL結果を2次元配列で取得する。
2-32	SetNullUpdate	サーバーDB更新系APIでローカル側に対象レコードが存在しない場合に更新を許可する(True)か、処理を中断する(False)かを設定する。
2-33	ReplaceSvrNT_fromLocal 2	ローカルテーブルのstrLC_Where条件データに合わせ、サーバーDB指定テーブルstrDBS_Table上のstrSV_where条件のデータを差し替える。
2-34	ExportSvr_fromLocal	Accessの指定テーブルをサーバーDB(SQL Server / Oracle)のテーブルに移行する。
2-35	GetRecordset_fromSvr	サーバーDB(SQL Server / Oracle)に対するSQLリクエストの結果をADODBレコードセット形式で返す。
2-36	GetDBSInformation	実行版(開発版)から渡されるサーバー情報やDB接続情報、ログイン情報を構造体dbSheetInfo2形式で取得する。
2-37	ReplaceSvrNT_fromRecordset	ローカルのADODBレコードセットをサーバーの指定レコードと差し替える。挿入も可能。

3. その他

No.	API名称	機能説明
3-1	GetDLL_Version	現在PCにインストールされているDLL("dbsAcNetClass.dll")のバージョン情報を取得する。
3-2	MakeColumnHTML	GoogleチャートAPIを利用し、棒グラフ表示HTMLを作成する。
3-3	MakeLineHTML	GoogleチャートAPIを利用し、折れ線グラフ表示HTMLを作成する。
3-4	MakePieChartHTML	GoogleチャートAPIを利用し、円グラフ(3D)表示HTMLを作成する。
3-5	MakeTableHTML	GoogleチャートAPIを利用し、表形式HTMLを作成する。
3-6	MergeChartHTML	GoogleチャートAPIで作成したHTMLをマージ(融合)する。
3-7	SetLogoutMode	API実行時にログ出力するかどうかを設定する。